

寒冷地地形談話会通信

第1号
1981年6月10日

1 6月例会のお知らせ

- 日時：6月10日(土) 2:30 より
- 場所：駒ヶ丘大理学部地理学教室 (東横線都立大駅下車)

～参加構想発表～

- 堀江吉三氏(都立大)：北アルプスの氷石水河
- 岡田義明氏(駒ヶ丘)：南アルプスの氷河地
- 杉田史隆氏(同上)：日高山脈嵯峨層の氷河地形

～研究発表～

岩田修二氏(都立大)・山田正二氏(東北大院)：ヒマラヤ山脈の上昇とチベット中部の地形形成

2 7月例会のお知らせ

- 日時：7月11日(土) 2:30 より
- 場所：明治大大学院 (中央線御茶ノ水駅下車)

～発表者～

- 山田正二氏(駒ヶ丘高)：私の山地研究
- 式正英氏(お茶大 地理)：地形研究の回顧～その意義と問題点～
- 夏の学校(関東山地金峰山)の打ち合わせ
- ※尚、7月例会の通知は、とくに発送いたしませんので厚いからず。また、例会には多数あるやい令おせの上、参加下さい。

3 寒冷地地形談話会“夏の学校”について

恒例の夏の学校(昨年は1日(土)のみ中止)を下記の要領で行ないます。参加希望の方はハガキで事務局まで御通知下さい(×印は7月10日、必着のこと)。尚、詳しい打ち合わせは7月例会終了後に行ないますので、7月例会には必ず出席下さい。

日程：8月17日、18日、19日、20日(予備日)

場所：関東山地 金峰山

案内者：鈴木由吉氏(上野高)・清水長正氏(明大・研)

内容：植生の垂直分布帯と化石湖氷河斜面

十 東京地理学協会創立10周年記念講演会
及び祝賀パーティーについて

今秋で東京地理学協会を創立して10年を迎えることに付
きました。これを記念して10月3日(土)に、記念講演及び記
念パーティーを予定しております。尚、詳細については後日
連絡いたしますが、会場については明治大学を予定していま
す。

5. 5月例会報告

5月16日(日)明大地理学教室にて開催。次の2つの発表があ
った。発表が良かった。世に如く場所が良かった。40名
を超える参加者があり、大盛況であった。

(1) 肥後高志・横山青司(明大)：谷川連峰の森林限界について

谷川連峰の湯陰谷川に面する山地斜面では、フナ松が森林
限界を造り、針葉樹林帯は欠如している。このうち左岸側で
はフナ松は1,600m付近まで上昇しているが、右岸側の武能岳
などは東斜面では1,200m〜1,400mにとどまっている。これは
この斜面ではこの辺から地形が急峻となり、雪崩が起これば
すぐ枯死するためと考えられる。

以上の仮説を植生分布と地形の対応から論証した。

(2) 下川和夫(明大)：全層雪崩による斜面侵食量の測定

御神楽岳の雪崩による形成された *avalanche chute* にお
ける表面剝削量と *chute* の表面にある穴の深さの減少を
測定することによって知ろうとした。全層雪崩の起る斜面
を測るに、剝削量は年々1mmのオーダーで予想以上にお
こることを明らかにした。

(まゝの、小冊子)

三 事務局長のこゝろ

会費未納の方は、前回の通信でお知らせした金額を至急、
お送り下さるべく切手でも結構です。)

送り先：〒104 東京都小笠原市東江北町4-1-1
東京学芸大学地理学教室
山本武栄宛

(山本 武栄)